

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

長野県地方独立行政法人長野県立病院機構 小児科病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	200床以上～300床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	17	対象	I 未 訓 ガ	臨
人口 (人)	建物面積 (㎡)	不採算地区病院	看護配置	
-	23,808	非該当	7 : 1	

許可病床 (一般)	許可病床 (療養)	許可病床 (結核)
200	-	-
許可病床 (精神)	許可病床 (感染症)	許可病床 (合計)
-	-	200
稼働病床 (一般)	稼働病床 (療養)	稼働病床 (一般+療養)
180	-	180

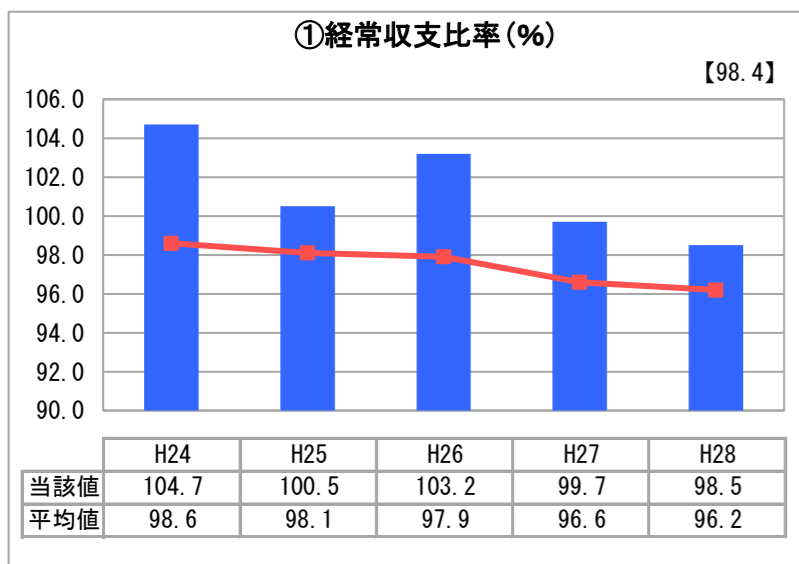
**グラフ凡例**

- 当該病院値 (当該値)
- 類似病院平均値 (平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

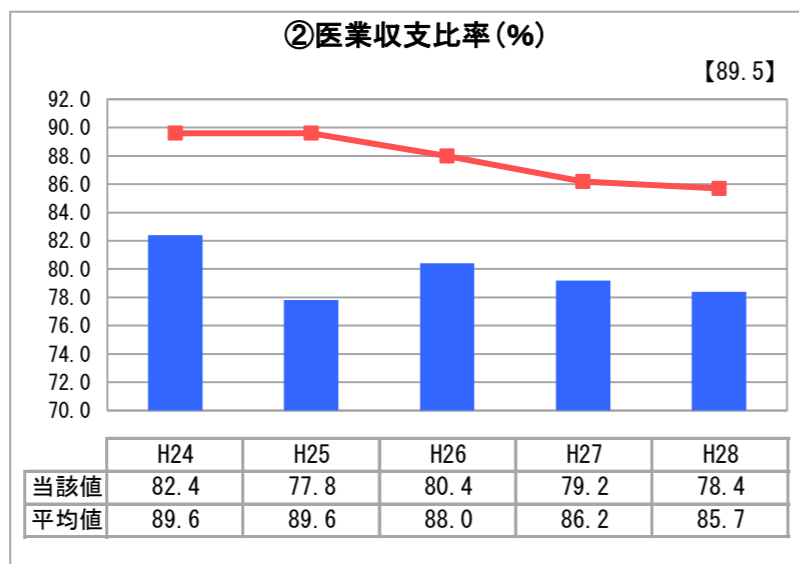
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

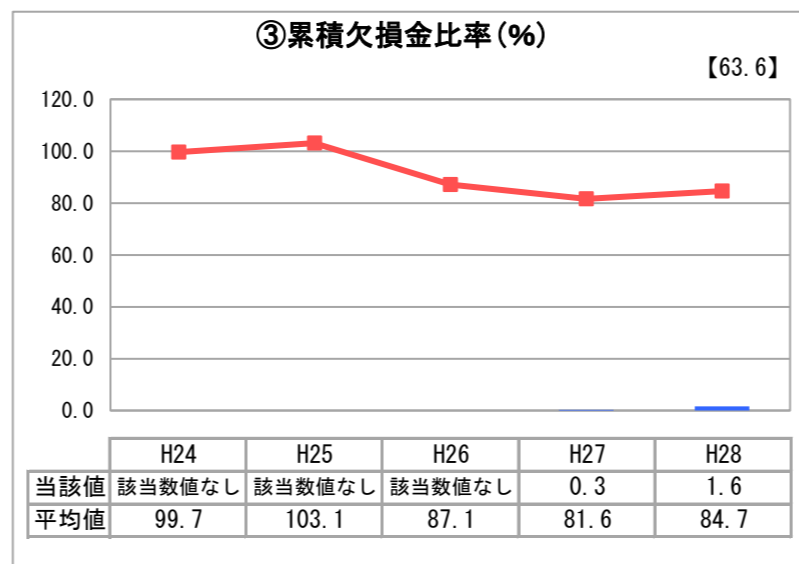
## 1. 経営の健全性・効率性



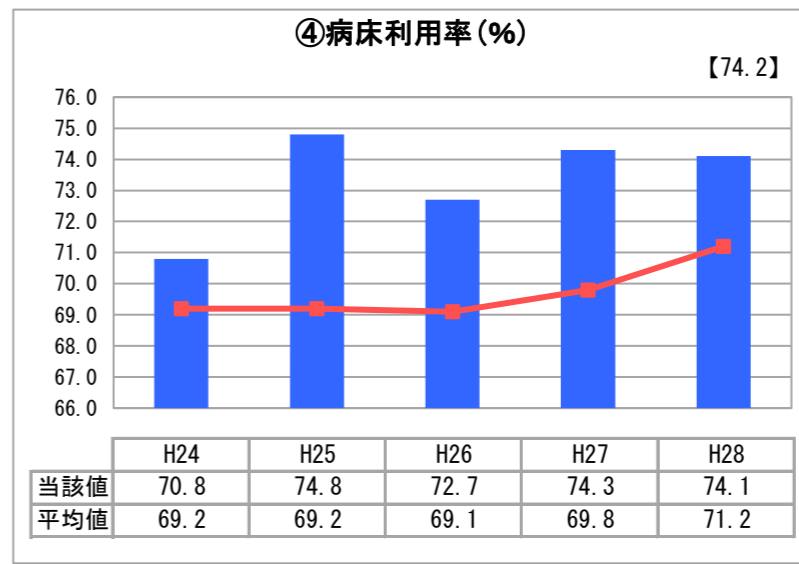
「経常損益」



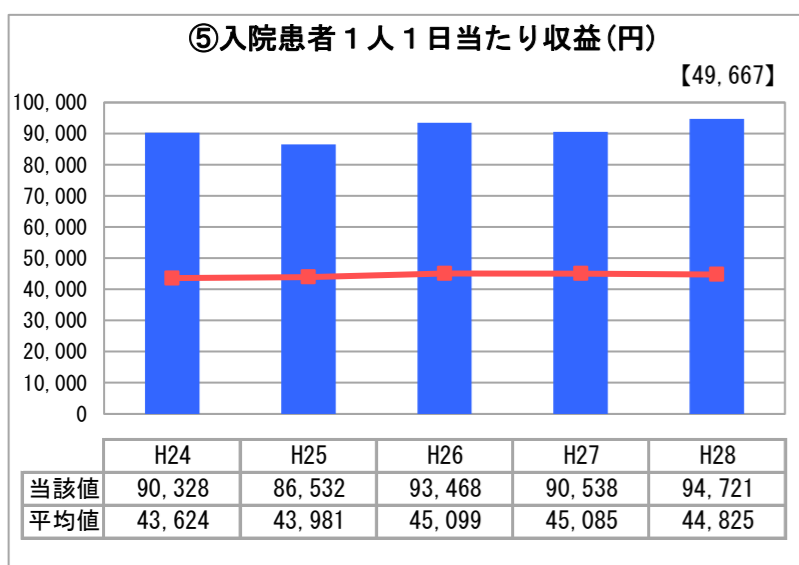
「医業損益」



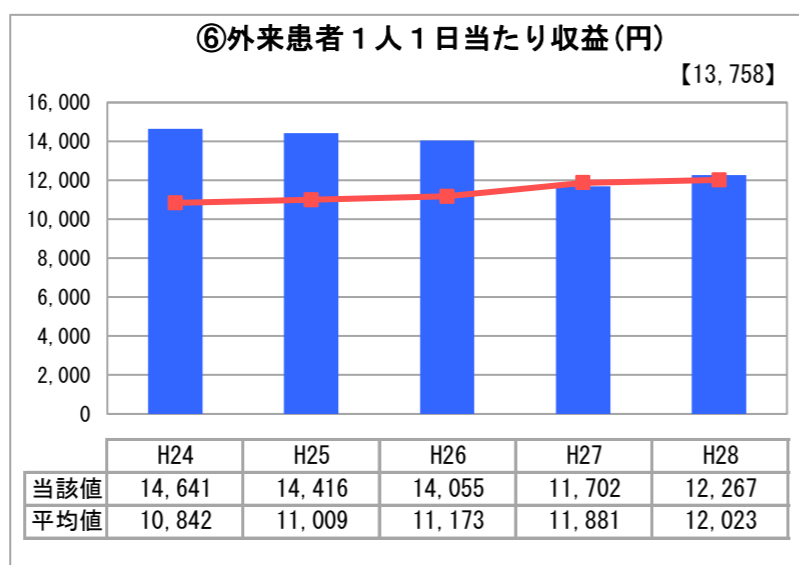
「累積欠損」



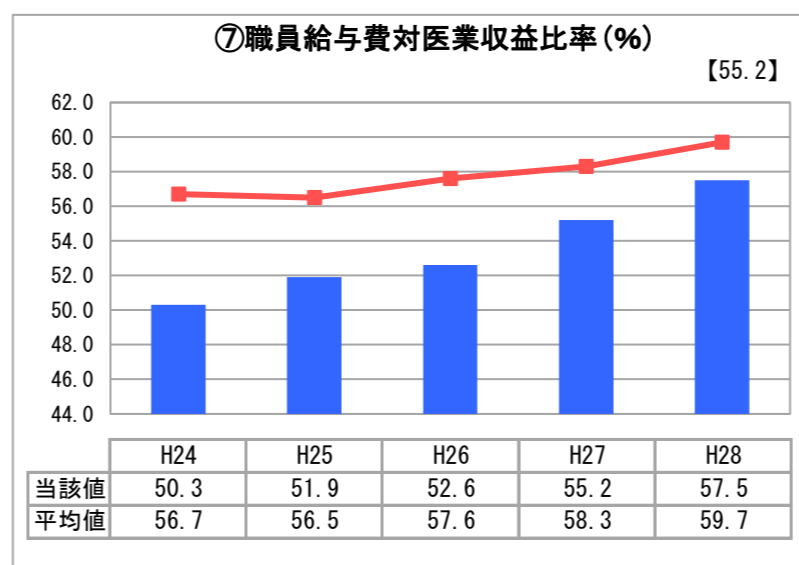
「施設の効率性」



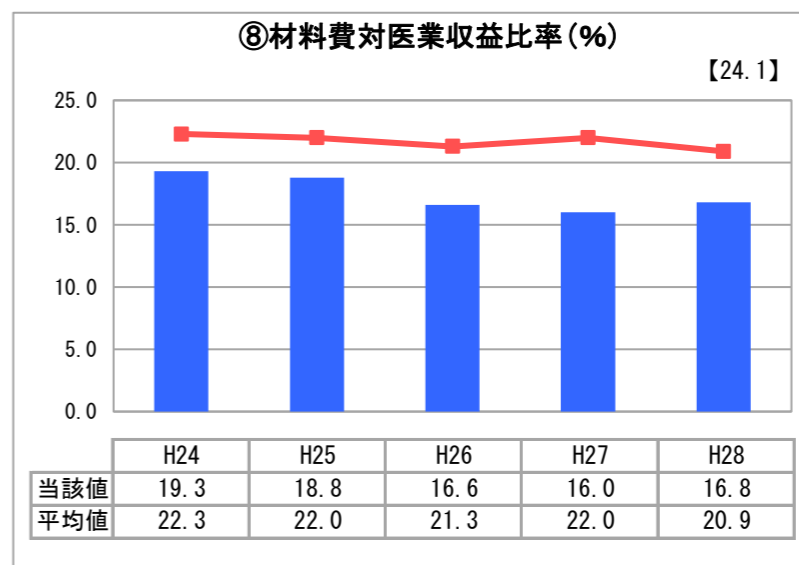
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

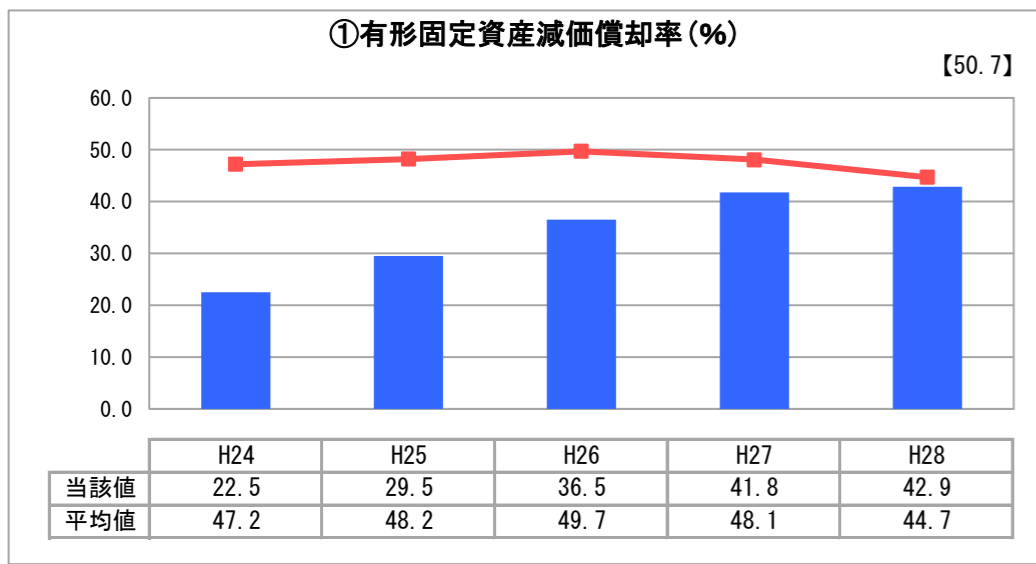


「費用の効率性①」

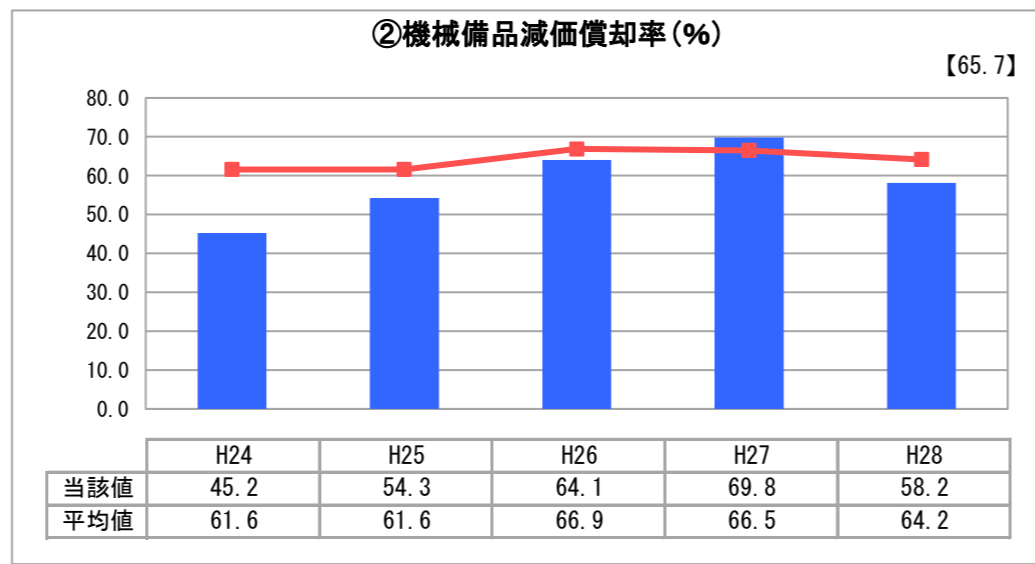


「費用の効率性②」

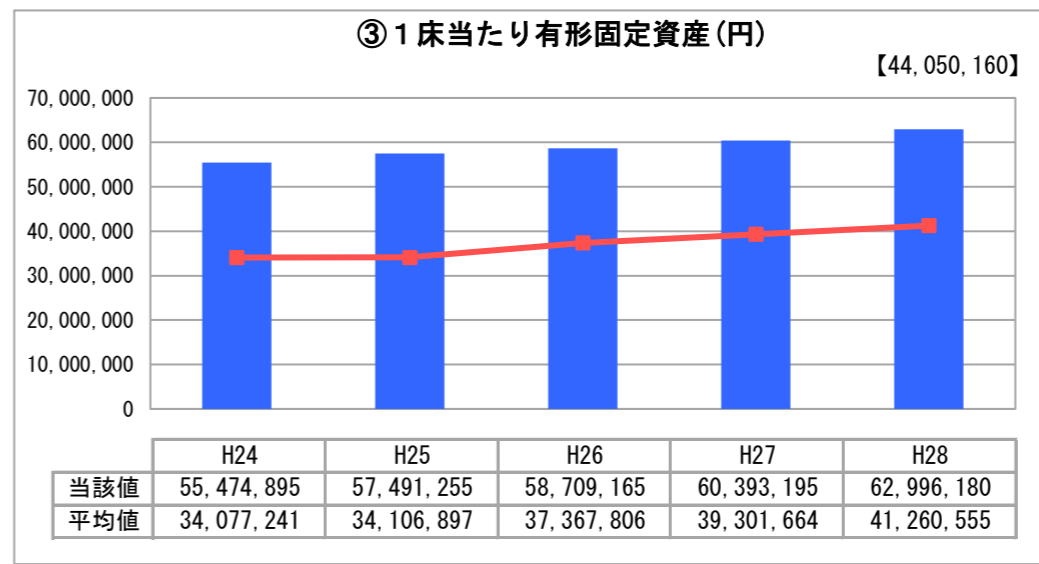
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

## I 地域において担っている役割

当院は、長野県唯一の小児科専門の病院として平成5年に開設され、一般の医療機関では対応が困難な高度な小児医療の中核病院、県の総合周産期母子医療センターとしての機能を担っている。  
近年、高度救命救急医療に加え、最先端の機器を活用した早期発見、予防医療等のプレホスピタルケア、在宅移行支援やキャリアオーバー対応等のポストホスピタルケア、難治性小児一般疾患（小児食物アレルギー）への対応等、幅広い分野について、その果たすべき役割への期待が高まっている。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

入院患者・外来患者ともに1人1日当たり収益は全国平均を上回っている。特に、入院患者1人1日当たり収益は類似病院の平均を大きく上回っていることから、高度小児医療を提供していることが分かる。  
職員給与費対医業収益比率は類似病院の平均値より低い比率となっており、経営の健全化が図られている。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産・機械備品の減価償却率については全国平均を下回っており、施設・設備とも、類似病院と比べればまだ老朽化は進んでいないものと考えられる。  
1床当たり有形固定資産に関しては、高度先進医療を提供するために行ってきた投資であり、結果として全国平均に比べ高額となっている。

### 全体総括

経常収支比率は減少したものの、経常収益は、診療報酬改定による小児入院医療管理料1の対象年齢拡大による入院料増収等により増加した。  
経常費用はベースアップによる給与費の増や高額薬剤と高額診療材料の使用量増による材料費の増などにより大幅な増加となった。  
今後は、代休取得による休日手当の減少と材料費圧縮による支出の抑制を図っていく。

※ 「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。